機関紙　コーポロ

Co-polo

第60回 通常総代会特別号

https://www.kyoto.coop/
発行　京都生活協同組合　　発行人：畑 忠男
〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町 1－2
☎ 075-672-6304　　2024年7月1日
商品・配達に関するお問い合わせやご意見など 組合員コールセンター
0120-11-2800 月～金 8:45～21:00 土 9:00～17:30(日休)

第60回 通常総代会を開催しました。

6月13日（木）、第60回通常総代会を開催し、第1号から第3号までの全ての議案が賛成多数で可決されました。

総代会とは、
生協の運営に関わる重要事項を決定する、最高の**意思決定機関**です。
毎年6月に組合員の代表となる「総代」が参加して開催され、京都生協の1年間の予算や活動方針、役員の選出などについて確認します。
今総代会では、総代508人中474人が出席（書面による出席330人を含む）し、194件の「私の想い」が寄せられました。
総代会の開催にあたっては、京都府や京都市からご来賓のごあいさつをいただきました。

message

第60回 通常総代会を迎えるにあたって

理事長　畑　忠男

京都生協は今年、創立60周年を迎えます。60年間は組合員の皆さまに支えられた年月でした。この場を借りて心より感謝を申し上げます。今年は、60周年記念商品の開発や組合員イベントなどを計画しており、1年を通して感謝の気持ちをお伝えしていきます。さて、物流システムの新旧機器入れ替えに伴い発生した、5月4回の宅配における物流トラブルでは、組合員の皆さまに一部の商品をお届けできず大変ご迷惑とご心配をおかけしました。この場をお借りしておわびいたします。今後は確実に商品をお届けできる体制を整えてまいります。

現在、世界においては、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、中東での紛争はいまだ出口が見えない状況で、多くの尊い命が失われています。戦禍に見舞われた国々に、1日も早く平穏なくらしが戻ることを切に願います。同時に米中対立をはじめ、国際社会の分断が徐々に広がる中、日本でも防衛費の増強が進められています。世界の国々が国際協力のもと、さまざまな問題解決を図っていくことが求められるとともに、私たち一人ひとりが平和の大切さを再認識し、平和の希求に関心を持つことが大切です。

日本社会に目を向けると、人口減少・少子化の加速による働き手不足が大きな社会課題となっています。京都生協は将来にわたり事業を継続できるように、これまで以上に人材の確保と育成に取り組み、協同組合の明るい未来をつくっていきます。

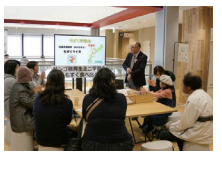
長引く物価高騰で家計への負担も大きくなっていますが、京都生協は2024年度も、協同の力でくらしをより良く、より豊かにしたいと考えています。SDGsの理念である、「持続可能な社会の実現」「誰一人取り残さない」は、協同組合の理念とも重なります。組合員の皆さまの毎日のくらしを全力で応援していく所存です。未来に向けて明るい希望を共につくっていきましょう。

2023年度 取り組んだこと ～特徴的な取り組み～

組合員の願いに応える商品とサービスの提供

- 物価高騰が続く中、「くらし応援全国キャンペーン」、宅配での「くらし応援セール」、店舗での「ガッチリ特価」を通じて組合員のくらし応援を続け、対応商品のおすすめを強めました。
- 食品ロス削減に貢献する「co-op完熟バナナスムージー」など、エシカル消費対応商品のおすすめを強めました。
- 組合員の声検討委員会を立ち上げ、課題の設定と改善の取り組みを始めました。
- 11月にコープ二条駅をリニューアルオープン。エシカル商品・量り売りコーナーを設置し、SDGsに配慮した店づくりを行いました。

誰もが安心して暮らせる地域社会づくり、SDGs達成への貢献



- 京都市と連携し、3店舗でエシカル消費推進イベントを開催しました（2月のコープ二条駅ではのべ700人以上が参加）。
- フードドライブの全店実施を開始し、実施回数も従来の月2回から月4回に増加。連携するフードバンクを通して、子ども食堂・母子支援施設などへ寄付しました。
- コープ二条駅に、消滅型生ごみ処理機を導入しました。
- 社会貢献活動助成金制度にて、10団体への助成を行いました。

2024年度 取り組むこと

今年、京都生協は創立60周年の節目の年を迎えます。

組合員の願いに応える商品とサービスの提供

- 組合員の声やアンケート結果を生かした商品企画と価格設定を行います。
- 良品セレクト商品、産直商品の開発を進めます。京都生協創立60周年を記念し、地域や地元取引先と連携した商品の開発にチャレンジし、商品を通じて京都生協の価値を発信します。
- コープ二条駅の供給高・来店人数を計画通りに進め、コープ醍醐石田のリニューアルを成功させます。

誰もが安心して暮らせる地域社会づくり、SDGs達成への貢献

- エシカル消費対応商品の普及を推進します。
- プラスチック使用量削減を目指し、2025年度のレジポリ袋配布終了に向け、店舗でのお買い物袋持参の取り組みを強めます。
- 食品リサイクル率の向上を目指し、店舗での消滅型生ごみ処理機導入や生ごみ堆肥化を進めます。

今総代会には194件の発言用紙が寄せられ、5人の総代が壇上で発言しました

まとめ報告（要旨）～私の想いとして寄せられた組合員の声に応えて～

専務理事　髙倉　通孝

（1）「生協さん、たすかっています」

店舗、宅配のご利用を通じて楽しく便利にお買い物をしたいという願いが出されました。店舗事業では組合員から「職員応対の感じが良い、商品の品質が良い、料理提案があるので助かる、地域・社会に貢献している、だから生協の店を利用している」と言われることを目指しています。応対についてのおほめの言葉と、商品の特徴や料理方法などの情報をもっと分かりやすく提供してほしいというご意見として受け止めます。くらしを豊かに楽しくする商品として品ぞろえしている、産直商品やコープ商品、「京都のええもん」商品などの価値やこだわりを分かりやすくお知らせできるよう工夫していきます。

（2）「命のはじまりから終わりまで生協に支えてもらいたい」

子育て期、そして60代とそれぞれのライフステージに合わせたご利用の様子をお話しいただきました。シニア・シルバー層になっても地域で安心して暮らし続けられるよう、生協が役割を発揮してほしいという期待の声です。お店が近くにない買い物困難者は全国で900万人以上と都市部でも増加しており、深刻な問題になっています。宅配・店舗事業で普段のお買い物へのお役立ちを高めていくと同時に、移動店舗「おかいもの便」や「おかいものサポートカー」の取り組みを強化することで、生涯を通じた買い物支援を進めていきます。

（3）「地域の店舗として」

毎日ご利用いただいているお店の存続問題に触れることで、改めて生協のお店の役割や価値について感じたことを発信していただきました。「大好きなお店」と言っていただき、生協のお店を大切な場所と感じていただけているようでうれしく思います。これからも地域の皆さまに愛され、頼りにされるお店になるよう、商品力、運営力、提案力をさらに高める努力を続けます。そして「生協のお店が大好き!」というファンを広げるために知恵と力を合わせていきましょう。

（4）「コープ二条駅について」

コープ二条駅の休業期間中はご不便をおかけしました。新しいお店として、商品の品ぞろえでは「プラスチック削減」「国産素材」「サステナブル」の3テーマに沿った提案や、行政や共同作業所、他企業との連携など、さまざまなチャレンジを行ってきました。閉店前と比較して3000人以上も多くの方にご来店いただけるお店となりました。一方で、商品の品ぞろえや施設面の改善、地域でのさらなる役割発揮を期待する声も複数出されています。コープ二条駅をさらに良くするための期待の声として受け止め、取り組みを進めていきます。

近隣の競合店との関係では、コープ商品だけでなくメーカーの通常商品の品ぞろえも必要です。生協のお店が提供する価値を分かりやすく知らせる差別化の対応と、比較されやすい商品の価格対応の両面で進めていきます。

（5）「若者世代との協力」

京都生協の組合員の年齢構成比において、65歳以上の層の割合が年々高まっている中、他団体との連携を通じて若い世代との関わりを深めてはどうかという提起をいただきました。2024年度もシニア層へのきめ細やかな対応とあわせて、若年層の加入につながる取り組みを進めていきます。ニーズに合った品ぞろえや利便性の向上だけでなく、生協の役割や価値を実感できるような取り組みを大学や大学生協と連携して進めています。

京都橘大学での、企業が提示した課題解決を検討する授業では、京都生協の今後の事業展開の方向性について研究いただいています。生協の歴史や事業、商品や活動の学びを通じた気づきを9月に報告いただく予定です。若い世代に限らず他者とのつながりを通じて信頼関係をつくり、安心して暮らせる地域社会づくりを目指していきます。

全体を通して

2023年度は皆さまのご利用のおかげで、供給高、経常剰余金の予算ともに達成することができました。改めて感謝申し上げます。2024年度の事業は、経常剰余金は予算を超えて確保できていますが、供給高は予算割れで苦戦しています。また、5月20日からの物流トラブルでは、組合員の皆さまに多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くおわび申し上げます。今後、新しい物流システム構築に向けての課題を明確にし、安定的に商品をお届けすることを最優先に、全力で取り組んでまいります。その他、2024年度の取り組みを一つひとつ確実に進めてまいります。

食の安全・安心をベースにした商品・サービスの提供、組合員の声に寄り添い、声からくらしの課題を発見し改善につなげていくこと、宅配・店舗の利用しやすさの改善、安心して暮らせる地域づくりへの貢献、それらを実行可能とする人材確保と人材育成を通じて、事業目標を達成していきます。

今年は創立60周年を迎えますが、物価高騰やエネルギー価格の上昇、異常気象による影響など、将来に向けた不安や解決すべき課題の数は創立時以上なのかもしれません。京都生協は、人材確保や人材育成につながる労働環境づくりや業務の効率化を通じて、持続可能な事業を推進していきます。

創立時の想いである「頼もしき隣人たらん」の精神で組合員の輪をさらに広げ、職員、そして関係する全ての皆さまと力を合わせて、希望ある未来に向けて役割を発揮していくことを決意するとともに、そういった社会をご一緒につくっていくことをお願いいたしまして、まとめの報告とさせていただきます。よろしくお願いします。

議案採決結果

■ 総代出席状況

本人出席 144　委任状 0　書面出席 330　合計 474（採決数は議長2人を除く）

議　案		反対	保留	賛成
第1号	2023年度　事業報告、決算関係書類承認の件	4	5	多数
第2号	2024年度　事業計画および予算決定の件	6	10	多数
第3号	役員報酬決定の件	5	22	多数

2023年度 事業の到達

■ 総事業高　**836億3,734万円**（予算差 +3834万円）

供給事業	実績	予算差	前年差
宅配事業	570億6,403万円	+5億803万円	+4億1,195万円
店舗事業	228億9,971万円	+2億3,271万円	+11億2,272万円
葬祭事業	8,902万円	△697万円	△389万円
小売でんき事業	6億9,910万円	△1億5,589万円	△13億2,526万円
供給高合計	807億5,187万円	+5億7,787万円	+2億552万円

・福祉事業収入：
4億116万円
（予算差 △4,383万円）

・その他事業収入：
24億8,429万円
（予算差 △4億9,570万円）

※共済受託手数料や葬祭承り手数料、個配手数料などの収入

■ 経常剰余金

22億1,549万円
（予算差
+11億5,549万円）

※事業総剰余金から事業経費・事業外収支を差し引きした金額。通常の事業活動をして最後に残った利益です。

■ 2023年度 経営結果

経常剰余金	22億1,549万円
特別利益	1,486万円
特別損失	3,465万円
税引前当期剰余金	21億9,570万円
法人税等	6億7,248万円
法人税等調整額	3,383万円

当期剰余金	14億8,937万円
当期首繰越剰余金	2億4,657万円
購買事業基盤強化積立金取崩額	6,400万円
システム最適化積立金取崩額	1億6,500万円
新型ｺﾛﾅ感染症等災害対応・支援貢献積立金取崩額	25万円
人材育成積立金取崩額	200万円
社会貢献活動積立金取崩額	195万円
60周年記念事業積立金取崩額	250万円
当期未処分剰余金	19億7,165万円

■ 2023年度剰余金処分

法定準備金	1億5000万円
出資配当金	1億930万円
任意積立金	16億6,245万円
次期繰越剰余金	2億6,264万円

■ 出資配当率

0.60%

2023年度の出資金に対する配当を年0.60%（税引き後0.4774%）とすることを決定しました。
本事業年度末（2024年3月20日）に出資金残高を有する組合員で、かつ、本総代会当日在籍している組合員に対して配当します。